

## 近代多頭養豚における疾病排除の意義

千葉県養豚試験場長

管 野 保

近年における経済の高度成長は、農業発展に対して、明暗両面にわたっていろいろな影響をおよぼしている。農業従事者と他産業従事者の所得・生活水準の格差の是正、あるいは米の生産調整など困難な問題に当面している。

これらの諸問題に対処するために、先に国の総合農政の基本的な方針が発表されている。これによると農業の近代化を実現するための必要条件として、規模拡大による生産性の向上をはかり近代農業の育成をすることがねらいである。また農家所得を昭和52年時点で200万円程度まで引き上げることが目標にしている。

このように、規模の拡大は、今後における農業の必要条件になっている。

したがって養豚においても多頭飼育による経営が要求されている。しかし現実において、養豚の多頭化をはばむいくつかの問題が横たわっている。その中で特に、多頭飼育における大きな問題として、クローズアップされるのはやはり衛生問題であろう。

現在日本の豚に発生している疾病は、ざっと数えて22~23もある。この中には、いまだに原因不明なもの、あるいは、原因がわかっているも現在の獣医学では、治療方法もみあたらず、無処置のままのものも数多く含まれている。

さらに交通機関の発達により外国との時間的距離が短縮され、往來がはげしくなった今日では、今までの日本に見られなかった新しい病気が、次から次へと発生している。

またこれらのなかには、人畜共通伝染病も数多く含まれている。WHO（世界保健機構）の調査成績によると、現在、細菌、ウイルス、リケッチャ、原虫などによる人畜共通伝染病は、約90種にのぼるといわれており、公衆衛生上からも大きな問題になっている。

これらの疾病に対する対策が立てられなければ、養豚の多頭化の道は、非常にけわしいことが十分に予想される。

また飼料の大部分を輸入しているわが国においては、これらの疾病を排除して、豚体個々の飼料要求率を下げると共に、多頭飼育による所得の増大をはかる以外に方法はないであろう。

最近、これらに対する根本的な対策として、特に注目され、また養豚関係者の間で話題になっているものにSPF豚がある。

幸いにして千葉県では、いち早く、千葉血清研究所が、アメリカから輸入したSecondary SPF豚の子豚を導入して、肥育試験を実施したところ、簡単な環境規制により、SPF状態を維持できた（衛試微生物検定合格）。しかも飼料効率もconventional swineよりすぐれている（飼料要求率で約1.0低い）など、養豚の多頭飼育における明るい見通しがついた。

しかし日本におけるSPF豚の研究成績は、基礎段階が終ったところで、一般の認識はまだまだ低いようである。

当場においては、移転と共に、新しくSPF豚生産施設ならびに、SPF豚増殖施設を完備し、SPF豚の産業目的のために、総合的な試験研究を押し進める体制を整えて、現在実施中である。これらに関する試験データも間もなくでるであろう。

豚の飼養は、豚肉の生産者から見れば、あくまでも利益の追求にあるが、それと同時に消費者の要求する品質のよい、しかも衛生上からも安心して食べられるような豚肉を多量に市場に供給するのをもまた生産者の役目であろう。そのためには、飼料効率のよい豚で、生産費の低下をはかりながら、多頭飼育による豚肉の大量生産が必要とされている。